実戦トライアル

A 第1回

国　語

注意：1．この問題用紙は，先生の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
2．解答欄は，この用紙の裏面です。答えは，すべてこの解答欄に記入しなさい。
3．先生の「やめ」の合図があったら，指示に従って解答欄のあるこの用紙だけを提出しなさい。

SAMPLE

実戦トライアル

国語 A 第1回 解答用紙

2

(5)

20 理助は

19

10 ので、

(4)

18

(3)

17

(2)

16 ↓ ↓ ア ↓

(1)

A 14

B 15

1

(3)

① 12

② 13

(2)

⑤ 11 ・

③ 9 ・

① 7 ・

④ 10

② 8

・

・

(1)

④ 4 寒 温

① 1 転 起

⑤ 5 者 択

② 2 死 生

⑥ 6 差 別

③ 3 苦 苦

クラス

番号

氏名

性別

男 女

総得点

/100

2 5点×7

❷ /35

1 5点×13

❹ /65

SAMPLE

2
(5)
20
から。

SAMPLE

領域別得点
❶ 説明的文章
❷ 文学的文章
／35
❸ 韻文
❹ 漢字・語句・文法
／65
❺ 資料・作文

1 次の問いに答えなさい。

(1) 次の□に漢数字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

① □転□起　② □死□生　③ □苦□苦
④ □寒□温　⑤ □者択□　⑥ □差□別

(2) 次の①～⑤の語句はすべて慣用句です。空欄に適切な身体の一部を表すことばをひらがなで書き入れ、その意味として、ふさわしいものをあとの語群から選び、記号で答えなさい。

① □塩にかける　② □が滑る　③ □を巻く
④ □を落とす　⑤ □が出る

ア 言ってはいけないことをつい言ってしまう。
イ 元気をなくし気力を失ってしまう。
ウ 驚きあきれ感心して言葉も出ない。
エ 予算を超過して赤字となる。
オ いろいろ世話をして養育する。

(3) 次の①・②の**ア**～**エ**の中には、種類が異なる語が一つずつ入っています。次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① **ア** 小さな　**イ** すなおな　**ウ** じょうずな　**エ** 静かな
② **ア** とても　**イ** ぜひ　**ウ** それで　**エ** そっと

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

楢渡のとこの崖はまっ赤でした。

それにひどく深くて急でしたからのぞいて見ると全くくるくるするのでした。

谷底には水もなんにもなくてただ青い梢と白樺などの幹が短く見えるだけでした。

向こう側もやっぱりこっち側と同じようでその毒々しく赤い崖には横に五本の灰いろの太い線が入っていました。ぎざぎざになって赤い土からはみ出していたのです。それは昔山の方から流れて走って来てまた火山灰に埋もれた五層の古い熔岩流だったのです。

崖のこっち側と向こう側と昔は続いていたのでしょうがいつかの時代に裂けるか割れるかしたのでしょう。霧のあるときは谷の底はまっ白でなんにも見えませんでした。

私がはじめてそこへ行ったのはたしか*尋常三年生か四年生のころです。ずうっと下の方の野原でたった一人野ぶどうを食べていましたら馬番の理助が欝金の切れを首に巻いて木炭の空俵をしょって大股に通りかかったのでした。そして私を見てずいぶんな高声で言ったのです。

「おいおい、どこからこぼれてここらへ落ちた？　さらわれるぞ。×キノコのうんと出来る所へ連れてってやろうか。お前なんかには持てないくらいキノコのある所へ連れてってやろうか。」

私は「うん」と言いました。

Y

私はもうほんとうに一生けんめいついて行ったのです。

SAMPLE

私どもは柏の林の中に入りました。

影がちらちらちらちらして葉はうつくしく光りました。曲がった黒い幹の間を私どもはだんだんくぐって行きました。林の中に入ったら理助もあんまり急がないようになりました。又じっさい急げないようでした。傾斜もよほど出てきたのでした。

十五分も柏の中をくぐったとき理助は少し横の方へまがってからだをかがめてそこらをしらべていましたが間もなく立ちどまりました。そしてまるで低い声で、

「さあ来たぞ。すきなくらいとれ。左の方へは行くなよ。崖だから。」

そこは柏や楢の林の中の小さな空地でした。私はまるでぞくぞくしました。*はぎぼだしがそこにもここにも盛りになって生えているのです。理助は炭俵をおろしてもっともらしく口をふくらせてふうと息をついてから、また言いました。

「いいか。はぎぼだしには茶いろのと白いのとあるけれど白いのは硬くて筋が多くてだめだよ。茶いろのをとれ。」

「もうとってもいいか。」私はききました。

「うん。何へ入れてく。そうだ。羽織へ包んで行け。」

「うん。」私は羽織をぬいで草に敷きました。

理助はもう片っぱしからとって炭俵の中へ入れました。私もとりました。ところが理助のとるのはみんな白いのです。白いのばかりえらんで A 炭俵の中へ投げ込んでいるのです。私はそこでしばらくあきれて見ていました。

「何をぼんやりしてるんだ。早くとれとれ。」理助が言いました。

「うん、けれどお前はなぜ白いのばかりとるの。」私がききました。

「おれのは漬物だよ。お前のうちじゃキノコの漬物なんか食べないだろうから茶いろのを持って行った方がいいやな。煮て食うんだろうから。」

①私はなるほどと思いましたので少し理助を気の毒なような気もしながら茶いろのをたくさんとりました。羽織に包まれないようになってもまだとりました。

日がてって秋でもなかなか暑いのでした。

間もなくキノコもたいていなくなり理助は炭俵一ぱいにつめたのをゆるく両手で押すようにしてそれから羊歯の葉を五、六枚のせて縄で上を*からげました。

「さあ戻るぞ。谷を見て来るかな。」理助は汗をふきながら右の方へ行きました。私もついて行きました。しばらくすると理助はぴたっととまりました。それから私をふり向いて私の腕を押さえてしまいました。

「②さあ、見ろ、どうだ。」

私は向こうを見ました。あのまっ赤な火のような崖だったのです。私はまるで頭がしいんとなるように思いました。そんなにその崖が恐ろしく見えたのです。

「下の方ものぞかしてやろうか。」理助は言いながらそろそろと私を崖のはじにつき出しました。私はちらっと下を見ましたがもう B してしまいました。

「どうだ。こわいだろう。ひとりで来ちゃきっとここへ落ちるから来年でもいつでもひとりで来ちゃいけないぞ。ひとりで来たら承知しないぞ。第一みちがわかるまい。」

理助は私の腕をはなして大へん意地の悪い顔つきになってこう言いました。

「うん、わからない。」私はぼんやり答えました。

すると理助は笑って戻りました。

それから青ぞらを向いて高く歌をどなりました。

さっきのキノコを置いた所へ来ると理助はどっかり足を投げ出して座っ

SAMPLE

て炭俵をしょいました。それから胸で両方から縄を結んで言いました。

「おい、起こしてくれ。」私はもうふところへ一杯にきのこをつめ羽織を風呂敷包みのようにして持って待っていましたがこう言われたので仕方なく包みを置いてうしろから理助の俵を押してやりました。理助は起きあがって嬉しそうに笑って野原の方へ下りはじめました。私も包みを持ってうれしくて何べんも「ホウ。」と叫びました。

そして私たちは野原でわかれて私は大威張りで家に帰ったのです。すると兄さんが豆を叩いていましたが笑って言いました。

「どうしてこんな古いきのこばかり取って来たんだ。」

「理助がだって茶いろのがいいって言ったもの。」

「理助かい。Z あいつはずるさ。もうはぎぼだしも過ぎるな。おれもあしたでかけるかな。」

私はまたついて行きたいと思ったのでしたが次の日は月曜ですから仕方なかったのです。

〈宮沢賢治「谷」より〉

（注）尋常＝小学校。
はぎぼだし＝キノコの名前。
からげ＝ふさぎ。

(1) A 、 B に入ることばとして、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度以上使えません。

ア だんだん　**イ** どしどし　**ウ** くるくる

(2) Y には次の**ア**～**オ**の文が入ります。意味の通るように正しく並べ替え、記号で答えなさい。ただし三番目には**ア**が入ります。

ア 私はすぐ手にもった野ぶどうの房を捨ていっしんに理助について行きました。

イ 自分だけ勝手にあるいて途方もない声で空でかぶりつくように歌って行きました。

ウ 「そんならついて来い。ぶどうなどもう捨てちまえ。すっかり唇も歯も紫になってる。早くついて来い、来い。おくれたら捨てて行くぞ。」

エ ところが理助は連れてってやろうかと言っても一向私などは構わなかったのです。

オ すると理助は歩きながらまた言いました。

(3) ――線①「私はなるほどと思いました」とありますが、このときの「私」の気持ちとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 白いキノコは固いから漬け物にむいているということを初めて知って驚くと同時に、自分はそんな漬け物はやはり食べたくないと思う気持ち。

イ 茶色いキノコをとれというのに、理助は白いキノコをとっているので、本当は白いキノコがおいしいのに自分をだましているのではないかと疑う気持ち。

ウ 自分の家ではキノコは煮て食べるので、固くて筋の多いキノコは煮るのに向かないと言われてその通りだと思い、疑っていたことを反省する気持ち。

エ 理助にいいキノコをゆずってもらい、申し訳ないとは思うけれど、自分は漬け物にするから固いキノコの方がよいという理助の言葉で自分を納得させようとする気持ち。

SAMPLE

(4) ――線②「さあ、見ろ、どうだ」とありますが、理助はどうして谷を見せようと思ったのですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 「私」が見たこともない自然の怖いぐらいの美しさを見せることで、自然の恵みの裏にはこうした怖さも背中合わせにあることを伝えたいから。

イ 「私」が怖がるような谷でさえも全く怖くないということを見せつけることで、自分を裏切って一人で来たらどのような目にあうか教えたいから。

ウ 谷の怖さを見せ、一人でここに来ることが危険だと教えることで、「私」がこっそりここへ来てキノコをとろうとする気持ちをなくしたいから。

エ 谷の様子がどのようになっているのか気になるけれど、危ないところだからと「私」をうまく丸め込んで、キノコをとった自分たちを谷が怒っていないか確かめたいから。

(5) ――線X「キノコのうんと出来る所へ連れてってやろうか」について、――線Z「あいつはずるさ」のように兄が言っていることが正しいとすると、どうして理助は「私」を誘ったと思いますか。この作品のタイトルが「谷」であることをふまえて、空欄の字数に合わせて自分のことばで説明しなさい。なお、理助は馬番となっていますが、「私」と同じぐらいの子どもです。

〈理助は［　十字以内　］ので、［　二十字以内　］から。〉

（これで問題は終わりです）

SAMPLE